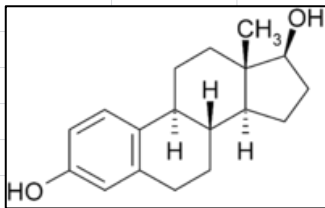
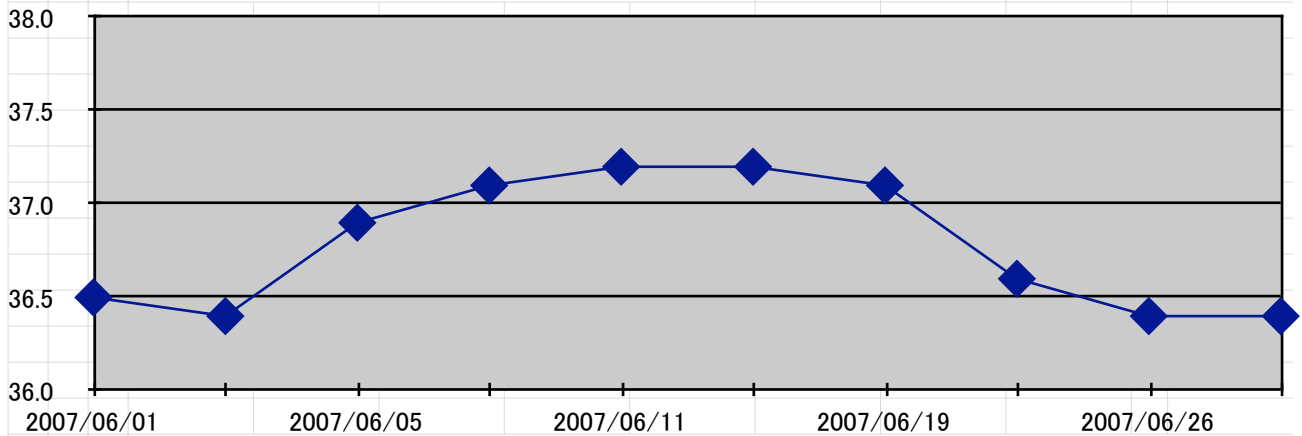


I	専門用語に関する設問に答えなさい。									
1	例にならい、専門用語に関する空欄をうめなさい。									
	日本語		英語(または略語)		定義または説明					
	(例) 子宮内胎児死亡		IUFD		子宮内で胎児が死亡した状態					
	① (		) Sertoli Cell		(			)		
	② (		) GnRH		(			)		
	③ 胎盤	(		) 妊娠時に、胎児が母体との栄養交換等のために子宮壁に形成される、付属物。						
	④ (		)	英語表記せず	分娩の進行が正常よりも遅く、分娩が長く続くこと					
	⑤ (		) (		) 胎児が子宮から産道を経て、排出されること					
II	生殖の基礎医学に関する設問に答えなさい。									
1	健康な26歳女性。月経周期は安定して30日という。この女性の排卵日は、月経の初日を1日目と数えて、何日目と予想されるか。								___ 日目	
2	精巣から分泌されるホルモンで、下垂体前葉からの卵胞刺激ホルモン(FSH)の分泌を抑制するものを選びなさい。								()	
	(1) テストステロン									
	(2) 黄体形成ホルモン(LH)									
	(3) アクチビン									
	(4) α-ジヒドロテストステロン									
	(5) インヒビン									
3	以下にあげた構造式は、ホルモン物質のものである。									
					① 	名称を答えなさい。				
						()				
					②	主な生理作用をあげなさい。				
4		妊娠反応検査に用いられる、妊娠時に、尿に排出される物質名を答えなさい。								
	(略語可)									
										
5	卵子の減数分裂について、以下の単語をすべて用いて、説明しなさい。									
	(極体		受精		排卵		LH	)		

6	正しいものに○、誤っているものに×、をいれなさい。	
(1)	卵胞から、エストロゲンとプロゲステロンが分泌される。	()
(2)	子宮内膜の基底層は、月経時に剥離しない。	()
(3)	頸管粘液は、排卵期に牽糸性を低下させる。	()
(4)	黄体期の子宮内膜には、脱落膜様変化がみられる。	()
(5)	膣の上皮細胞は、表層ほど核濃縮が著明である。	()
7	妊娠可能年齢の女性に、放射線検査を行う場合、望ましい時期はどれか。	()
(1)	月経開始10日前以降、月経開始日まで	
(2)	月経開始後から10日以内	
(3)	月経開始後、月経終了まで	
(4)	月経終了後から10日以内	
(5)	次の月経予定日から14日前の日以降から次の月経開始日まで	
8	正常妊娠初期の症候でないのはどれか。	()
(1)	悪心	
(2)	下腹部膨満感	
(3)	頻尿	
(4)	乳房膨満感	
(5)	リンパ節腫脹	
9	妊娠持続期間について、正しいものに○、誤っているものに×、をいれなさい。	
(1)	着床は、胎齢2週に起きる	()
(2)	受精後266日が分娩予定日である。	()
(3)	妊娠初期とは、妊娠11週までをいう。	()
(4)	胎芽とは、胎齢8週までの胎児をいう。	()
(5)	ヒトの妊娠とは、受精から胎児および付属物の排出までをいう。	()
10	胎盤について、正しいものに○、誤っているものに×、をいれなさい。	
(1)	母体成分と胎児成分からなる。	()
(2)	IgMは通過しない。	()
(3)	母体血と胎児血が混合される。	()
(4)	内分泌器官としても機能している。	()
(5)	分娩時、正常は、約100グラムである。	()
11	正常な産褥では、子供に授乳している方が、非授乳婦よりも、後陣痛が強いと言われる。それは、どのようなメカニズムと考えられるか、説明しなさい。	

Ⅲ 産科学の基礎についての設問に答えなさい。

1 健康な女性の、ある一ヶ月の基礎体温表を示す。



この方の基礎体温表と時間軸とをあわせて、以下の4つのホルモンの血中濃度変化を図示しな

エストロゲン

プロゲステロン

FSH

LH

2 胎児の発育の評価は、成長を評価するものと、発達を評価するものに、分けられる。
超音波検査で実施される胎児の成長評価について、
関係するものに○、無関係なものに×、をいれなさい。

- | | |
|----------|-----|
| (1) 羊水量 | () |
| (2) 頭部横径 | () |
| (3) 頸椎長 | () |
| (4) 胸囲 | () |
| (5) 大腿骨長 | () |

- 3 胎児の発達を評価する方法として、NSTノンストレステストがある。
胎児の心拍数と、子宮収縮を同時に計測するものであるが、以下に正常と判断されるNST所見を描き、簡単に説明しなさい。

胎児心拍数

子宮収縮

(説明)

- 4 妊娠糖尿病について、設問に答えなさい。



* 妊娠糖尿病(GDM)の定義は、1995年の日本産婦人科学会のものとする。

- ① GDMの診断基準を書きなさい。通常の成人の糖尿病の診断基準との違いについて述べている場合は、加点する。

- ② 以下の症例を妊娠糖尿病(GDM)と十分に診断できる場合○、できない場合×、をいれなさい。
(確定診断するためには情報が足りない場合は、診断できない場合としてください)

- (1) 17歳のとき、糖尿病と診断された、16週の22歳の妊婦。随時血糖値220mg/dl ()
(2) 12週、32歳の妊婦。空腹時血糖が110mg/dl。いままでに糖尿病との診断はない。 ()
(3) 13週、26歳の1回経産婦。前回妊娠時は正常、分娩後も血糖値に異常なかった。
今回、空腹時血糖90mg/dl、75g-OGTT1時間値220mg/dl、2時間値160mg/dl ()
(4) 23週、36歳の妊婦。空腹時血糖が140mg/dl。網膜に増殖所見あり。
いままでに糖尿病との診断はない。 ()
(5) 9週、33歳の1回経産婦。前回妊娠中に妊娠糖尿病と診断された。分娩後も、
糖尿病の治療を受けていた。今回、随時血糖212mg/dl、75g-OGTT2時間値230mg/d ()

- ③ 妊娠中は、耐糖能異常が認められやすい。そのような妊婦のインスリンの血中濃度について、正しいものに○をつけなさい。

1: 正常の非妊婦より低い 2: 正常の非妊婦とほぼ同程度

3: 正常の非妊婦より高い

8	急速遂娩の適応になるものに○、ならないものに×、をいれなさい。	
(1)	遷延性除脈の出現	()
(2)	NST non-reactive	()
(3)	遅発性除脈の頻発	()
(4)	胎児末梢血pH 7.10	()
(5)	切迫子宮破裂徴候の出現	()
V	生殖倫理に関する以下の設問に答えなさい。	
1	わが国では、非配偶者間での生殖補助技術の実施は、原則として、禁止されているが、例外的に、その実施が認められている場合がある。 以下について、認められている場合は○、認められない場合は×、をいれなさい。	
(1)	精巣癌による去勢術による男性不妊(女性側には異常なし)	()
(2)	多嚢胞性卵巣症候群による女性不妊で、卵巣刺激でも成熟卵胞が得られない。	()
(3)	交通事故による子宮破裂および両側卵巣摘出による女性不妊	()
(4)	肺癌で死亡した夫の、抗癌剤治療前に冷凍保存した精子による、夫の死後の体外妊	()
2	28歳の初妊婦。妊娠初期の悪阻は、軽度。妊娠経過中、下腹痛および性器出血はない。 子宮底長の推移は基準範囲内。妊娠26週、妊産婦健康診断でのLeopold診察法で、羊水過多が疑われ、超音波検査を行ったところ、児頭が描出されない。 正しいものに○、誤っているものに×、をいれなさい。	
(1)	夫の同意がなくても、人工妊娠中絶は可能である。	()
(2)	母体保護法による胎児適応での人工妊娠中絶が可能である。	()
(3)	妊娠満22週をすぎているので、人工妊娠中絶はできない。	()
(4)	胎児の生命予後は不良と判断されるので、人工妊娠中絶を行う。	()
(5)	人工妊娠中絶を実施するには、保健所の判断が必要である。	()
VI	症例問題	
1	22歳の女性。初経は11歳。以前から、月経は不順である。 3ヶ月前からの無月経を主訴に、来院した。乳汁分泌はないという。性交はなく、妊娠反応検査も陰性である。直腸診上、子宮は正常大、付属器に異常はない。 まず、本症例に対して、血中ホルモン測定を行う予定である。	
①	次に行う検査、処置として、最も適切なのはどれか。	()
(1)	経膈超音波検査	
(2)	腹腔鏡検査	
(3)	エストロゲン、プロゲステロンテスト	
(4)	ゲスターゲンテスト	
(5)	ゴナドトロピン負荷テスト	
②	なぜ、そう考えたのか、理由を説明しなさい。 (理由が誤り、非論理的、あるいは、無回答の場合、上記①も採点しません)	

- 2 26歳の女性。未妊。無月経と吐き気を主訴に来院した。最終月経から起算して、無月経の期間は、8週0日である。妊娠反応陽性。経膈超音波検査で、子宮内に胎嚢と心拍動のある胎芽を認める。

この時点で、正しいものを2つ選びなさい。

(()

- (1) 頭殿長は、2cmに達する。
- (2) 子宮の大きさは、手拳大である。
- (3) 子宮内膜は、脱落膜化している。
- (4) 子宮頸部は、子宮体部より柔らかい。
- (5) 子宮の着床部位に、軟化・膨隆が認められる。

VII 課題症例に関する設問に答えなさい。

- 1 第一症例のPATIENT PROGRESSをよく読んで、設問に答えなさい。

PATIENT PROGRESS

3月19日、自然妊娠成立は不可能と考え、体外授精の適応と考えられた。
エストロゲン製剤とゲスターゲンの投与による消退出血開始後、hMG150単位/日を9日間投与した。その結果、最大卵胞径18mm(同時に16mm以上の卵胞を7つ認めた)に達した時点(5月10日)で、hCG5000単位を投与し、卵胞を穿刺することにより、卵子を6個得た(5月12日採卵)。体外授精させたのち、子宮内に2個胚移植した。
(略)

5月26日、妊娠反応陽性であり、妊娠4週0日と考えられた。

6月13日(妊娠6週4日)、経膈超音波検査を行った結果、子宮内に2個の胎嚢が認められ、2つの胎児心拍も認められた。(以下 略)

- ① この患者に、体外授精・胚移植が選択された理由はなぜだったのか、説明しなさい。

- ② 体外授精は5月12日に行われたのに、5月26日が妊娠4週0日と判定されたのは、なぜか。

- 2 この症例に関する、Tutor-timeでのある学生の発言を読んで、設問に答えなさい。

友人A:「この患者が、双胎になったのは、受精卵を2個、子宮に戻したからだと思う。」

この友人Aの意見は、誤りである。どうして、誤りと断言できるか、根拠を説明しなさい。

卵胞からの排卵は、ホルモンによって制御されている。その経過を説明しなさい。

④ GDMの病態メカニズムについて、知っていることを書きなさい。